

# 外国語(英語)の教科書の使い方

## 「児童が英語を使う姿」を想像することから単元構想を始める

小学校外国語の教科書は、児童が英語で気持ちを伝え合えるようになるために、いくつもの段階を踏み、少しずつ「できる」に近づいていくように構成されています。しかしながら、「教科書のページを順番に学習しているうちにできるようになる」というボトムアップではなく、「**ゴールを見据えて近づいていく**」という**トップダウンの発想を持って単元構想を練る**ために、まずは単元全体のページを概観してみましょう。

## 単元全体の概観

各単元の後半には、児童が行う言語活動が用意されています。日頃指導している目の前の児童の顔を思い浮かべながら、「どんな表現活動をさせたいか」「何を伝えることができるようになってほしいか」を具体的にイメージしてみましょう。教科書に示されている言語活動は一例です。目の前の児童に合わせて、「**こんなこともできそう**」と**考える**ことからスタートしてみましょう。

## 単元目標に近づいていく教科書の流れ



### 児童を題材に近づける

各単元のはじめには、見開きのダイナミックなページがあります。多様なイラストや写真、さらには、デジタル教科書の動画なども活用して児童を題材に近づけます。この段階ではたっぷり音声で聞かせ、題材に対する児童の興味関心を高め、想像力をかき立てます。教科書の場面設定を活かしつつ、児童にとって身近な地域の話などを取り入れてもいいでしょう。

### 段階を踏んでできるように導く

ゴールである〔言語活動〕において、児童が英語で「気持ちを伝え合う」ためには、〔練習〕段階インプットや練習が欠かせません。教室においては、教科書にある活動を児童の反応や習熟度を見ながら取捨選択し、適宜工夫をしたりた!!「言えそう!」という気持ちを児童に実感させることが大切です。

### 「伝え合う」を大切に

単元末の〔言語活動〕で児童に何をさせたいかを考えることが、教材研究のスタートになります。児童が自分の気持ちを「伝え合う」ことができるように児童の発想を大切に、活動をデザインします。活動では、児童が伝えた内容をとらえて、その内容についてのフィードバックを心がけましょう。

## 単元目標から逆算して考える教材研究の流れ

最初に単元のゴールを決める!

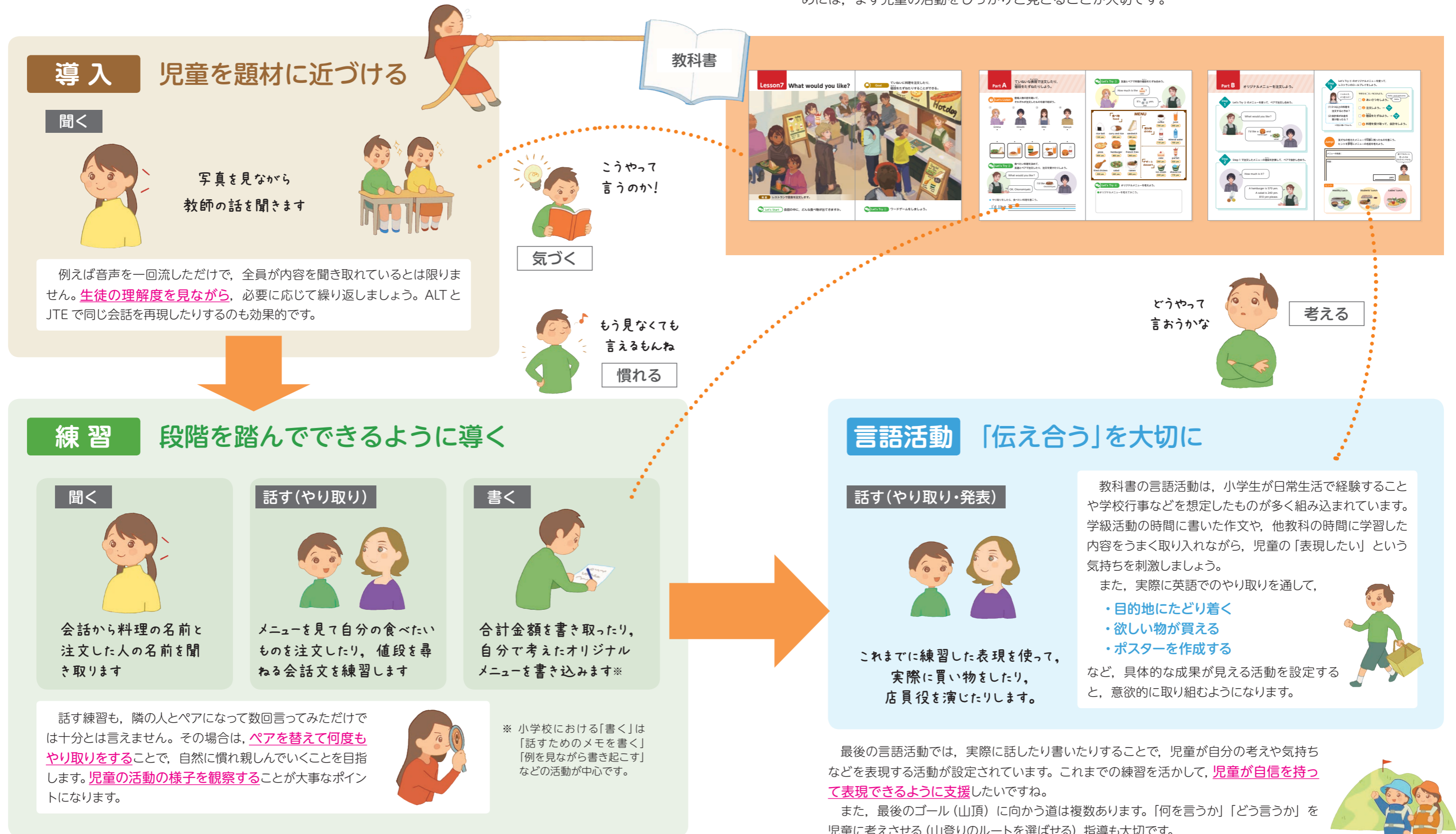
## 教科書に出てくる題材・活動の流れを知る

### どんな活動が設定されているか

単元の最後にある言語活動に向けて、知っておくべき単語や表現を練習する活動が教科書にはいくつも設定してあります。基本的には音声→文字の順に、あるいは理解→発信の順に活動が並べられています。まずは**教師が活動のねらいや内容をよく理解**して、児童にも活動の目的をしっかりと伝えられるようにしましょう。

### 活動を観察して、児童の定着度に応じて繰り返す

教科書の活動に取り組む際には、**児童の活動の様子を見ながら、必要に応じて回数や順番を変える**ことも大事なポイントです。新しく学習したばかりの表現にまだ十分に慣れ親しんでおらず、自信を持って言えない児童が多いようであれば、全体で再度確認したり、個別の練習を増やしたりする必要があります。そのためにも、まず児童の活動をしっかりと見とることが大切です。



外国語(英語)の教科書の使い方

## 教科書をアレンジしてみる (導入・言語活動)

この単元は、題材名 What would you like? から連想できるように、単元末にお客としてレストランで自分の好きな食べ物を注文したり、店員としてお客の対応をしたりする言語活動に取り組む構成になっています。教科書通りに進めることもできますが、児童にとって取り組むべき価値がある、魅力を感じるものとなるよう、教師によるアレンジも可能です。

このページでは単元の始まりである〔導入〕と、単元のゴールとなる〔言語活動〕について、アレンジの具体例を紹介します。指導している児童の関心や習熟度など実態によってアレンジの方向性は様々あります。日頃は他教科も教えている学級担任であれば、他教科・領域で学習した内容を取り入れて「横断的」なアレンジもおすすめです。

### 導入 ひと工夫で題材をアレンジ

#### Step 1 身近な話題から始めよう!

学級担任 (もしくは専科教員等) と ALT による Teachers' Talk をしましょう。地元にあるレストランや食堂の写真を示しながらやり取りをして児童に聞かせます。



日本食が好きな ALT に、地域にある日本食レストランを紹介しています。

担任: You like Japanese food. Do you know any Japanese restaurants in our town?  
ALT: Not really.  
担任: Look at this photo. Do you know this restaurant?  
ALT: No, I don't.  
担任: It's a Japanese restaurant, Edoya.  
ALT: Edoya! What can we eat?  
担任: Here's the menu. What can you see?  
ALT: **Wow. Looks really good!**  
担任: Class, what's this?



ALT が喜んでいます。担任が児童を巻き込んでいきます。

#### Step 2 ターゲット文を何度も!

どのような場面で使われるのかを実感させながら、ターゲット文 (赤字) を聞かせていきます。

児童: Karaage.  
担任: Right. Japanese style fried chicken. They're very juicy.  
ALT: I want to try it. **How much is this?** (値段を尋ねる表現)  
担任: Let's see... OK, it's ...?  
児童: **480 yen!**  
ALT: OK. I'll take it.  
担任: **What would you like?** (食べたいものを尋ねる表現)  
ALT: Well...  
担任: **How about rice and miso soup?** (提案する表現)  
ALT: Good. **How much is rice and miso soup?**  
担任: Class, **how much is rice?**  
児童: **120 yen.**  
担任: Then, **how much is miso soup?**  
児童: **100 yen.**  
ALT: Thanks. Rice and miso soup, **please.** (丁寧な表現)

自然な場面・状況の中でターゲット文を使ってみせます。



児童は単元末に、お客としてレストランで自分の好きな食べ物を注文したり、店員としてお客の対応をしたりする言語活動に取り組めます。児童が必要感や必然性を感じることができるような単元の始まりにしましょう。

#### Step 3 単元末の活動をイメージできるやり取りを

今度は、ALT がイニシアチブを取って話していきます。ALT が行ったことのある地域のレストランの話します。

ALT: Look at this photo. Do you know this restaurant?  
担任: Yes, I do.  
ALT: Nice. This is my favorite Italian restaurant in our town. Pizzalia.  
担任: Great. Let's go there together.  
ALT: Yes! Here's the menu. **What would you like?**  
担任: **I'd like Margherita pizza. How much is it?**  
ALT: **680 yen. Would you like some drink?**  
担任: Yes, please. **I'd like soda, please.**  
ALT: Sounds good.  
ALT: OK. **Let's go to the restaurant together and order your own favorite food!**

ALT がレストランの写真を示して、担任にたずねています。



担任と ALT がレストランでのやり取りを実演しています。

ALT が児童を誘って、自分が好きな食べ物を注文しよう、と提案しています。

このように、児童の興味・関心を引きつけ、「自分ごと」として感じられる (自己関連性) 状況を作り、児童の背景知識を活性化させます。**自然な流れの中で教科書を開本** することができるようになります。



### 言語活動 声掛けで児童の思考を深めさせる



〔思考・判断・表現〕を意識して、児童がより深く考えるためのアレンジ案です。ポイントは、**会話の目的を設定** することです。決められたものを買ってくるだけでなく、買ったもので何が作れるか、予算の中でどれを買うか、など会話すべき内容を児童が自分で選択する場面を作り出しましょう。また、話し相手との関係性によってはより丁寧に話すなど、**話し方の工夫** も見られるようになります。教師のちょっとした一言で、児童の思考を深めさせることができます。

1,000 円ぴったりにしてみようか

ぴったりにする商品を選ぶ必要があります。ちょっとした「算数との教科横断型」

バーガー類を全部売り切ろう

店員さん役の児童たちに積極的なセールストークを促します。必死なセールスに対応するお客さん役も工夫が必要になります。

今日買ったもので何か作れる?

野菜や食材などを購入する設定の場合は、買った野菜などでどんな料理ができるかを考えさせることもできます。

値引きをお願いしてみようか

簡単な表現を教えれば値引き交渉も可能です。児童から「なんて言えばいいの?」という声を引き出したいですね。